**平成２９年度第１回大阪府がん対策推進委員会（議事概要）**

**１．日　時：**平成29年９月２５日（月）14時～

**２．場　所：**國民会館住友生命ビル12階　中ホール

**３．議　事：**（1）第３期大阪府がん対策推進計画（素案）について

（2）その他

**４．委員からの意見要旨**

（1）第３期大阪府がん対策推進計画（素案）について

**【意見要旨】**

**＜基本理念＞**

○第4章の基本理念を全体構想として標記したらどうか。記載されている基本理念は4年前に大阪府が策定した健康増進計画のままになっている。これではがん対策という感じがしない。「がんに向き合い、がんに負けることなく」という言葉を入れて欲しい。いのち輝くと記載しているが2025年の万博のテーマを引用してきたものであり、がん対策の基本理念とは少し違うように思う。

○がん計画なのだから、基本理念に「がん」という言葉を入れた方が良い。万博とがん対策とは別の話かと思う。

○がん患者の立場からすれば、基本理念に「がん」という言葉を入れて欲しい。

○全体の整合性を求めるなら仕方ないが、基本理念に事務局案のいのち輝く未来というのは違和感があり疲れる感じがする。

○基本理念に「がん」を入れて欲しい。無理なら「全ての府民が健やかで心豊かに生活できる活力ある社会」を共通理念とし、その下にがん計画の基本理念として「がん」を入れてはどうか。

**＜基本目標＞**

○基本目標について、健康増進計画の目標に合わせてあり、その中で4つの項目を設定しているが、何故この４つなのか理解できない。まず基本理念を上げて、それをどういう戦略を立てるのか。そういうことを記載すべきではないか。

○目標と重点政策にしたらどうかと思う。国においてはがん医療を中心に置いて、医療の前後という形で組み立てている。がんとの共生もあるが、一生懸命やったとしても、がんで悩む人、苦しむ人の数は減らない。がん対策の究極の対策は、り患する前とり患した後に大きく分けて考える必要がある。

○「がんにならない社会づくり」として大きく掲げて、3つの重点政策を掲げるのはどうか。

○改正後のがん対策基本法ではがん患者が尊厳を持ってと記載があるが、尊厳を持つ前に生きる希望を失う患者が多いことが深刻である。そういったことから全人的がん医療の推進ということを重点政策として掲げたらどうか。

**＜基本的な取組み＞**

○インセンティブの導入、地域間競争の促進、新しい周知方法の活用などを検討頂けないか。

○基本的な取組みについては、がんという病気を治すだけではなく、がん患者と府民の想いに焦点を当てたがん対策として計画を策定して頂きたい。

○全人的ながん医療を取り入れて頂きたい。がん患者は単に病気が治れば良いという問題ではない。看護師の一言で元気をもらったという声を沢山聞いてきている。病院内での看護師がどういった働きをするのか、影響は大きい。また、院内サロンというものは、緩和ケアや相談支援とはまた別の意味がある。院内サロンでは他の方から情報を得て自分自身で立ち直るといった効果が期待できる。

**＜目標設定＞**

○数値目標としてがんのり患率の低減を掲げる。り患後には、「がんになっても希望を持って安心して暮らせる社会の構築」を掲げる。

○数値目標としては、がん死亡率の低減を目標にしたらどうか。国では全体目標として考えてきたが、こういう戦略を立てるとこれから重要なのはり患率の低減が重要ということが見えてくる。

○がん検診の目標設定について、全国平均ぐらいにして欲しい。達成できそうな数値目標にして欲しくない。

○目標設定する以上、数値がぶれない項目を目標設定すべき。り患率であれば過剰診断という問題もあり、り患率そのものを目標とするのは危ないと思う。付随的な数値として扱う方が良い。均等に他の目標と同じように扱うものではない。

○トータルの指標のひとつとして、患者さん一人ひとりの満足度を図るしかないのではないかと思う。サンプル調査でも良いので定点的なデータ収集が必要ではないか。

**＜がん予防・早期発見＞**

○予防・早期発見について、今取り組んでいることにプラスして、新たな促進策の導入などを検討して頂きたい。

○がんにならない社会づくりとして3つの政策を考えたが、がんの予防、早期発見につながる検診といった今までの取組みだけでは進まないだろうと考えられる。

《がんの１次予防》

○予防の中心がたばこ対策となっているが、たばこ対策の部分が上手く進まないということで、うやむやな表現となっているところがある。

○第2期の計画でもがん教育に触れていたが、次期計画の中ではがん教育は学校現場で行っていくという意味で教員に研修を受けて頂き取り組むだけでなく、学校医も健康教育等の授業を行っているので、もっと活用したらどうか。

　　　**＜がん医療＞**

**《がん登録》**

○第2期計画の評価のうちがん登録については、目標に対する実績をもう少し詳しく記載する必要があるのではないか。

**《希少がん・難治性がん》**

○希少がんにかかる注釈を入れて欲しい。

○希少がん等について、Ｐ４１の表記では、適切な医療を受けられるようと記載があるが、Ｐ４０の表記には無いので併せて欲しい。

**＜患者支援の充実＞**

○資料２に記載があるが、「患者本位のがん医療の実現」から「患者個別に応じたがん医療の充実」に変更しているが、変えない方が良いのではないか。

**《がん患者の相談支援》**

○総括がん患者支援センターを設置して欲しい。

**《就労支援などサバイバーシップ支援》**

○がん計画において、サバイバーシップという言葉を使う時は、がんサバイバーシップと記載した方が良いのではないか。

○第2期計画でも就労支援に触れていたが、次期計画では就労支援を全面に出している。産業医の記載を目標や本文にも記載して頂けたらと思う。

**＜がん対策を社会で進める環境づくり＞**

**《社会全体の機運づくり》**

○府民になじみやすいよう、漫才師の活用やお祭りにて啓発したらどうか。

○商店街、市町村、政界で議員連盟などを作って、それぞれががん対策の主役であるといった独自性を活かした活動が必要ではないか。

**《がん対策基金》**

○がん対策基金について、病院の会計窓口で寄附をお願いしたらどうか。

**《がん患者会等との連携》**

○患者に対する患者会との連携、がん教育の取組みについて、主体を教育委員会と明記すべき。教員の中にもがん患者がいる。

○患者会の充実でなく、拡充にして欲しい。もっと患者会を増やしたい。また、がん患者の満足度を測る必要があるのではないか。定点的なデータを測る必要性を検討して欲しい。

（2）その他

○第3期大阪府がん対策推進計画策定スケジュールの説明

○部会において、計画以外についての審議について報告

《がん検診診療部会》

胃がん検診に内視鏡検査が追加されたことに伴い、昨年度の部会において、市町村での胃内視鏡検査導入の支援として、各種標準様式を作成することになったことを受け、その検討を行った。部会での意見を踏まえ、様式を修正しすでに市町村へ提示したことを報告。

　　　　《がん診療拠点病院部会》

今年度の府指定のがん診療拠点病院の新規募集について、現在、国において国指定のがん診療拠点病院の指定要件の見直しを議論しているところ。前回の見直し時には国は検討期間中の国指定の新規募集を停止したことから、府指定のがん診療拠点病院についてもそれに準じた対応をしたところ。現時点では国の対応は未定ではあるが、おそらく新規募集をしない公算が高いと思われることから、前回同様、今年度の府指定のがん診療拠点病院の新規募集は行わない予定である旨を報告。